



マラウイとわたしたち

岡山県井原市立野上小学校

担当教科：算数

岸野 利香

◆実践教科：総合的な学習、算数 ◆時間数：7時間（総合的な学習・3時間、算数・4時間）

◆対象学年：第2～6年生 ◆対象人数：9名

カリキュラム

◆実践の目的

- ・マラウイを通して、自分自身を見つめ直す。
- ・マラウイと日本の共通点・相違点に目を向け、様々な角度から物事を考える力を育てる。
- ・算数のよさを実感しながら、異文化への興味関心を高める。

ココがすばらしい！

算数の授業の中に、無理なく国際理解のプログラムが組み込まれており、グラフを使ってマラウイの現状を表すなど、子どもたちが楽しく数字に親しめる工夫が随所に見られる。ただの数字をグラフに表すことで“生きた情報”になる驚きが子どもの感想からも読み取ることが出来る。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	マラウイってどんな国？ それぞれの国のイメージを共有し、マラウイへの興味をもつ (総合：5・6年生)	①マラウイの○×クイズをする ②マラウイ・タイ・日本の写真を見て、それぞれの写真がどこの国かを考え、その理由を話し合う ③マラウイクイズをして、マラウイの様子を知る	②3カ国の写真 ③パワーポイント
2	マラウイと日本を比べてみよう 文化や生活の違いはあるが、視点を変えると同じ人間であるということに気付く (総合：5・6年生)	①マラウイの写真を見たり、話を聞いたりしてマラウイと日本との違いを考える ②似ているところについて考え話し合う	①マラウイの紙幣や写真
3	マラウイの平均寿命について考えよう マラウイの現状を考え、青年海外協力隊について知る (総合：5・6年生)	①マラウイの平均寿命について知る ②平均寿命が短い理由を考える ③マラウイで活躍している青年海外協力隊員の様子のビデオを見て、思いや願いを知る	①平均寿命世界マップ ②模造紙 ③ビデオ
4	水のかさを測ってみよう マラウイと日本のお風呂に使う水の量の違いに目を向け、水の大切さについて考える (算数：3・4年)	①日本とマラウイのお風呂に使う水の量を推測する ②バケツ一杯分の水のかさを実際に測る ③水の大切さについて話し合う ④頭にバケツをのせて歩く	①写真 ②1ℓマス、バケツ
5	マラウイの算数にチャレンジしよう マラウイの文化に触れながら、算数が日本以外の国でも勉強されていることに気付く (算数：2年)	①マラウイの学校での勉強の様子について想像し、話し合う ②マラウイの算数の教科書の一部を見て、計算問題を解いたり、絵を見ながら文章問題を作ったりする ③教科書にのっている絵からマラウイの生活を知る	①写真 ②マラウイの教科書、ノート ③マラウイの木べら、布など
6	色々なグラフに表そう 適切なグラフを選択して正確に表し、グラフからマラウイの様子を読み取る (算数：5年)	①マラウイと野上小学校の子どもたちの“好きな教科”のアンケート結果をもとに割合を考え、円グラフに表す ②棒、折れ線、円、帯グラフの特徴をまとめる ③マラウイと日本の資料をもとに、色々なグラフを作成し、グラフから気付くことを話し合う	①アンケート結果 ②棒、折れ線、円、帯グラフ ③マラウイと日本の気温などの資料
7	マラウイ算数クイズを作ろう 総合的な算数力を活かし、数字からマラウイに対する理解を深める（算数：5年）	①マラウイの数字に関する問題に挑戦する ②今まで算数で習ってきたことを活用し、各学年のマラウイ算数クイズを作る	①カード

1 時限目

マラウイってどんな国？

まず、マラウイのことに関する〇×クイズを行い、子どもたちの興味をひきつけて導入とした。そして、これから見せる写真は、日本・マラウイ・タイの3カ国の写真であることを伝え、どこの国の写真か理由を話し合った。その中で、子どもたちは自分のもつ各国のイメージや、テレビや教師の話から得た知識をもとに、自由な意見を交わしていた。

【3カ国の写真の内容】

マラウイ:携帯電話の鉄塔・畑・土ほこりをかぶっている日本車・蚊帳
 タイ:水上の家・たくさんの携帯電話・手を合わせてあいさつしているマクドナルド
 日本:沖縄の米軍付近を歩いているアメリカ人の子どもたち・雪山・本校にある梅の花

最後にマラウイクイズを行った。自分たちが思い描いていたイメージとは少し違うところもあり、マラウイについて興味や関心をもつことができた。

児童の感想

- ・タワーがあるけど、草むらの中にあるからマラウイだと思う。
- ・日本にもありそうな草だし、マラウイにはこんな高い建物はなさそうだから日本だと思う。
- ・(携帯電話のための鉄塔とわかって)マラウイにもタイにも携帯電話はなさそうだから日本だと思う。



携帯電話の鉄塔(マラウイ)



マラウイの畑

- ・ミニトマトがあるから日本だと思う。
- ・後ろの方にバナナの木みたいなものがあるから、タイだと思う。
- ・マラウイにも野菜があると思うし、後ろがジャングルみたいだから、マラウイだと思う。

〈所感〉

子どもたちは、写真の中からたくさんの情報を読み取り、一枚の写真でも色々な見方をすることができたり、人によっても意見が異なることに気がついていった。

2 時限目

マラウイと日本を比べてみよう

まず、マラウイで収集した写真などから、マラウイと日本の文化や生活の違いについて考えた。その後、似ているところはないか問いかけたところ、自分の家は土壁だからマラウイの家と似ていると答えた児童がいた。それから、昔は日本もわらぶきの屋根だったことや、アイロンも炭だったことなどが挙がり、マラウイと昔の日本は似ているということに広げることができた。さらに、視点を変えると、学校がある・家族がいる・家があるというところは形は違っても同じだということに気付くことができた。

また、写真を見て、子どもたちが外で元気に遊んでいたりと、にこにこ笑ったりしていることが似ているという意見もあった。

児童の感想

違うところ

- ・家の材質や形
- ・お金の種類
- ・電気がない
- ・手で食べる
- ・頭に物をのせて運ぶ

似ているところ

- ・学校がある
- ・外で元気に遊んでいる
- ・算数がある
- ・お金を使っている
- ・気持ち

〈所感〉

始めは違うと思っていたものでも、視点を変えてみると同じではないかということに子どもたちが気付いてくれたことが良かった。今後、遠く離れた国に住んでいる人々も、文化の違いを認め合い、同じ人間だと感じるができる授業をしていきたい。そのためには、写真や映像だけでなく、子どもたちが実際に人と人として触れ合う経験が必要なのかもしれない。



3時限目

マラウイの平均寿命について考えよう

子どもたちにマラウイが抱えている問題にも目を向けてほしいと思い、日本とマラウイの平均寿命の違いについて考えた。80歳を超える日本の平均寿命に対して、なぜマラウイの平均寿命は40歳近くなのか、考えられる理由をブレーストーミングしながら話し合った。

そして、マラウイで活躍している青年海外協力隊のビデオを見て、活動の様子や隊員の思いなどに触れた。



授業の様子



平均寿命の短い理由のブレーストーミング

〈所感〉

この授業では、子どもたちが自分のこととしてマラウイの現状を受け止め真剣に考えたり、自分たちに何ができるのか自分自身に問いかけたりすることが不十分に終わってしまった。今後の課題として、子どもたちの心を揺さぶっていききたい。

4時限目

水のかさを測ってみよう

まず、私たちとマラウイの人々では、お風呂にどれくらいの水の量を使っているか話し合った。

人それぞれ違いはあるが、日本では浴槽1杯分として考えることにした。マラウイでは、青年海外協力隊の人から聞いたおおよそバケツ1杯分の水をお風呂に使っていることを伝えた。そして、その水のかさの違いはどれくらいか表すために、3

年生で習った水のかさの単位の中から「ℓ(リットル)」を選び、何リットルか予想させた。浴槽には200~300ℓの水を使っていることを知って、子どもたちは予想以上の水の量に驚いていた。

次に、バケツに入る水のかさをリットルマスを使って測った。使用したバケツには、6ℓの水が入り、日本はマラウイの50倍もの水を使っていることが分かった。また、水の大切さについて考えるとともに、普段の自分たちの水の使い方も振り返って考えた。最後に、水を入れたバケツを頭に乗せて歩く体験をした。



バケツの水のかさは何リットルかな？



思っていたより重いなあ。

児童の感想

- ・こんなに水が入ったバケツが重く思わなかった。
- ・マラウイの人たちはこんな重いものをいつも運んでいてすごいなあ。
- ・マラウイと日本では、お風呂に使う水の量が全然違ってびっくりした。
- ・水は色々なことに使われていて、大切なものだなあと考えた。
- ・水をもっと大事に使わないといけないと思った。

〈所感〉

お風呂に使う水の量を、実際にリットルの単位で考えることにより、より違いを感じる事ができたように思う。バケツを頭に乗せてみることも、実際に体験することで、子どもたちも楽しみながらマラウイの文化を感じることができたと思う。

ただ、マラウイではなぜお風呂に使う水の量が少ないのかということに、もう少し深く触れることができれば、その背景を知ることができたり、さらに水の大切さを感じ取ることができたりしたのではないかと思う。また、予想以上にバケツが重かったという子どもたちの声をもとに、重さの学習へつなげることもできると思った。

〈所感〉

算数と日常生活を関連付けたり、グラフにするよさを少しでも感じたりしてほしいという願いから、この授業を行った。今まで学年ごとにグラフの表し方を学習してきたが、色々なグラフの中から適切なものを選んで表すという活動は、より実生活にグラフを活用できる力を育てられる活動ではないかと思った。

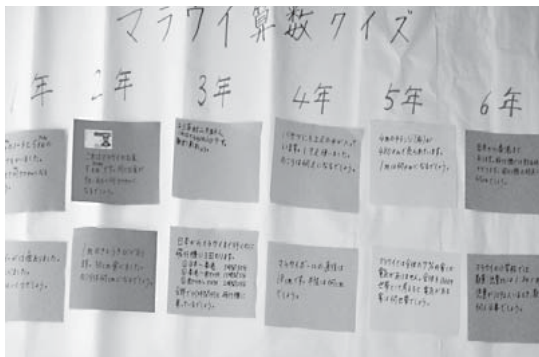
今後、調べ学習などでも活かしていけたらと思う。

7時限目

マラウイ算数クイズを作ろう

マラウイの情報を集めると、多くの資料に数字や分数、少数、百分率などで情報が表されている。正しい情報を得るためには、算数の力が必要である。そこで、1年から6年まで各学年で学習する内容に合わせて、マラウイ算数クイズを作った。

出来上がった問題を他学年と共有する機会を設けた。



マラウイ算数クイズ

〈所感〉

今回は5年生1名と授業を行ったため、まだ未習の6年レベルの問題などは教師が手伝いながら問題を作った。学年や単元など関係なく自由に問題作りを始めたが、範囲が広すぎたため例題をいくつか用意するなどして、一緒に問題を作った。

単元や場面を絞って問題を作るほうが、児童にとってわかりやすい活動になるということが分かった。

成果と課題

～授業を通して～

本校は山間部に位置し、全児童数18名という小規模校である。少人数という良さもある一方、色々

な視点で物事を考えることができにくい面があり、自分たちと違う世界のことを知る機会も少ないという現状もある。そのため、視野を広げ、多面的な観点から物事を見て考えようとする力が培われるよう、本実践を行った。他の先生方のご支援、ご理解もあり、全校生徒へ話をする機会や、5・6年生の総合的な学習、2・4・5年生へ算数の授業を行うことができた。

まず、3時間の総合的な学習では、児童がマラウイに対して、負のイメージだけを持たないように気をつけながら学習を進めていった。児童にとって、実際の写真・映像・物などから五感を使って異文化に触れることは、とても興味深かったようである。しかし、伝えたいことが多すぎて、内容が絞れなかったことが反省点に挙げられる。ねらいを焦点化し、子どもたちがじっくりと考えることができる授業を、今後実践していきたい。

次に、専科教員という立場を活かし、算数科に国際理解教育を取り入れて授業ができたことは、私にとって大きな収穫となった。このことは、国際理解教育につなげるだけでできなく、算数のよさも実感でき、算数の授業をより活動的なものに発展できると思う。今回は、1時限ずつ時間をとったが、それぞれの単元の発展問題として、授業の終わりに取り入れていくことも可能であると分かった。

この実践を通して、改めて国際理解とは、自分自身を知ることだと感じた。主体的に異文化に関わり、他を認め、自分も受け入れることができる子どもたちを育てていきたい。また、自分が研修で得たことをどう授業につなげるか試行錯誤したことは、私にとって大きな一歩となった。お世話になったたくさんの方々への感謝の意を表したい。そして、今後さらに国際理解教育に積極的に取り組んでいきたいと思う。



マラウイの太鼓 (ンゴマ)



マラウイの教科書 (算数・科学・図工・チェワ語)

参考資料

【テキスト】

- ・「MALAWI PRIMARY MATHEMATICS 1」
Malawi Institute of Education
- ・「Primary Science 1」MACMILLAN KENYA

【ホームページ】

- ・世界平均寿命・国別順位
[世界保健機関WHO-世界保健報告2006年度版]
http://memorva.jp/ranking/unfpa/who_2006_life_expectancy.php